

クルリンと ほしぞらさんぽ 1月号



あけまして おめでとうございます

今年が楽しい良い年になりますように。コロナが早くおさまりますように。みなさんが楽しく理科を勉強できますように。流星群を見られますように、宇宙ステーションも見たいなあ。…あれこれいろいろなお願いしたいですね。

今年もほしぞらさんぽを続けようね

いよいよ冬の美しい星座たちの季節になります。冬の空気は遠くまで見通せるほどにすっきりとすみ渡る日が多いので、それだけでも星空がきれいに見えますが、冬の夜空には明るい星々がちりばめられていて、星座なんか知らなくてもきれいなあと思いますね。

星座のことを知らない？ だったら市立図書館に行ってお冬の星座が書いてある本を1冊借りてきましょう。児童書コーナーの**自然科学**の書だなで探すのですよ。オリオン座、おうし座、ふたご座などのキーワードがあればその本を借りましょう。そして星空さんぽに出る前にちょっと予習しておくのです。

借りた本と星座早見盤と見比べながら読んでいきましょう。たとえば「オリオン座が真南に見えるのは1月○日の△時ごろなんだな!」「冬の1等星はどれとどれ?、1等星いくつあるのかな?」「星の色はどんなにちがうのかな?」というように考えながら読むのですよ。

1月5日の午後7時(24時制でいうと19時)ごろ、どんな星座が見えているか、知っている星座はいくつ見えるはずか、星座早見盤で確かめましょう。

寒さ対策のポイント

下着をがっちり着込むことが基本。モコモコのコートを着てもホッカイロを貼っても、下着がうすいと暖かくなりません。首筋から暖かい空気が逃げないように考えて。頭から冷えてきますから必ずニット帽をかぶりましょう。もちろん手袋も、そして靴下を2重にはきます。

星座早見盤、赤い光の小さいライト、双眼鏡もあるといいね。さあ準備ができたならほしぞらさんぽに出かけましょう。

1月の天文現象

1月4日に「しぶんぎ座流星群」

観察するのは3日の夜からです。新月で月明かりがないのでよく見えるはずですが。「しぶんぎ座」を探しても星座早見盤にはありませんね。200年前の名前ですから。北の方角、りゅう座やうしかい座のあたりとしてみてください。

1月7日 水星を見つけるチャンス

地球よりも内側で太陽を回っている惑星=水星は太陽に近すぎる上に小さい星なのでなかなか見ることができません。それが7日に東方最大離角とうほうさいだいらかくとなって太陽から左側にもっとも離れるので、なんとか見つけられるチャンスです。午後4時43分の日没後、空がまだ明るいうちに、およそ南西の太陽が沈んだ方角のごく低い空、角度でいうと地平線から10度ちょっと上を探します。太陽が沈んで10分ぐらいしたら、その方角を5分おきに5・6枚、望遠気味で撮影します。あとで写真を拡大してみると水星が写っているのが何枚かあるでしょう。

1月17日 国際宇宙ステーションが見えるかな

18時30分過ぎのようです。ほぼ天頂付近をゆつくりとまっすぐに南西から北東方向に通って行くらしいですよ。

1月の星空から

おうし座の星を調べてみましょう。冬の星座としては真っ先に東の空から上ってきて、1月上旬の午後6時ごろには南東の空に見つかります。散開星団のプレアデス星団（日本では昔から「すばる」と呼ばれていました）と、同じく散開星団のヒアデス星団があります。散開星団は一つの大きなガスの塊からほぼ同じところに誕生した兄弟の星たちのかたまりです。すばるはとても美しい星団で、夜空でも目立っていますが、ヒアデス星団の方はかたまっている感がありません。ヒアデス星団は近くて約150光年、プレアデス星団（すばる）はそれよりも遠い443光年。ヒアデス星団の方は近すぎて星のかたまりに見えていないわけです。

プレアデス星団の写真を見ると、星になるときに
に取り残された青いガスにかこまれた星々がとても美しく、人気があります。双眼鏡で見るとも美しく、人気があります。双眼鏡で見るとも美しいと言われていいますから、みなさんも双眼鏡で観察してみましょう。

